



青年海外協力隊の歩みと現状

その20年

昭和60年10月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局

正 誤 表

本文ページと目次記入ページ及び本文中一部誤りがありましたので、
下記のとおり訂正いたします。

	誤 (目次)	正 (本文)
第二章 任国での軌跡		
第4節 中近東・北アフリカ地域……………	(127)	→ (128)
第5節 東アフリカ地域……………	(147)	→ (150)
第6節 西アフリカ地域……………	(185)	→ (189)
第7節 中米地域……………	(201)	→ (206)
第8節 南米地域……………	(212)	→ (219)
第9節 オセアニア地域……………	(224)	→ (231)

本文 —ケニア編—

154 ページ左側上から3行目…………… 1976(S41) → 1966(S41)

以 上

青年海外協力隊20周年記念募集
イメージソング当選歌

地球色の日焼け

作詞:松兼 功

補作詞:武田鉄也

JICA LIBRARY



1018749[0]

何かを捜して 空を見つめたら
遙か 遠い地平線に雲がかけてゆく
一人だけでは かたちにならない夢
何もしなければ 空しく終わる青春

見知らぬ言葉で 優しさを語ろう
見知らぬ人達と 熱い汗流そう

そこに 地球色に
日焼けした 君がいる

鏡に向かって 自分映しても
時が過ぎれば いつの間にか心は眠る
出会い重ねて 暮らしに息づく愛
心ぶつけあい 一つになれるときめき

あふれる若さを 太陽にやかれて
日ずさむ歌 大地に注げば

そこに 地球色に
日焼けした 君がいる



青年海外協力隊の歩みと現状

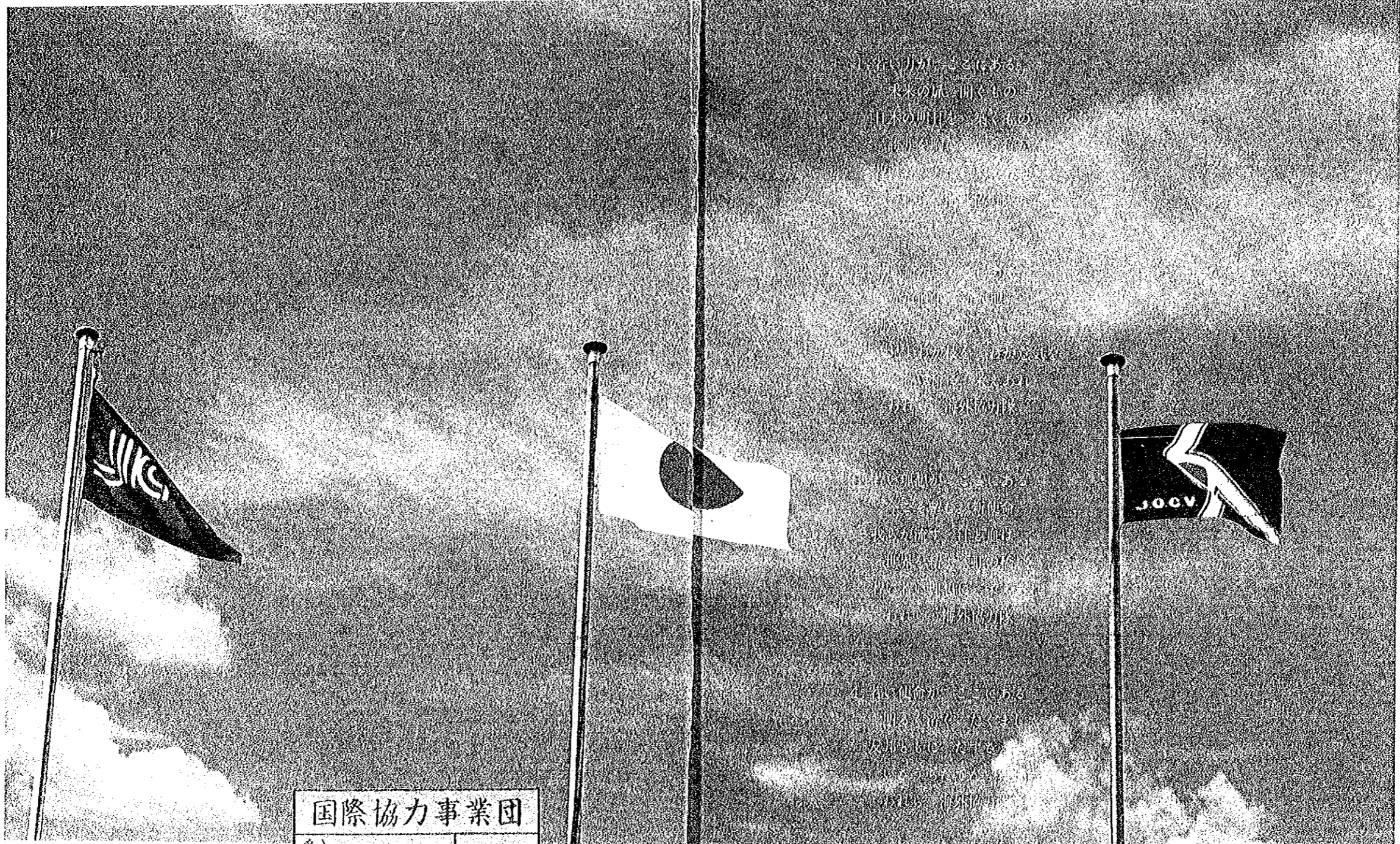
その20年

昭和60年10月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局

若い力の歌

作詞:山田 哲 補作詞:藤田まさと 作曲:古関 裕而



若い力がこぼる
水米の原 開くもの
日本の明日は 水米の
命をこぼる
若い力がこぼる
水米の原 開くもの
日本の明日は 水米の
命をこぼる
若い力がこぼる
水米の原 開くもの
日本の明日は 水米の
命をこぼる
若い力がこぼる
水米の原 開くもの
日本の明日は 水米の
命をこぼる
若い力がこぼる
水米の原 開くもの
日本の明日は 水米の
命をこぼる

国際協力事業団	
受入 月日 '85.11.18	000
登録No. 12084	36
	JV

創立20周年を迎えて

青年海外協力隊は、本年、創立20周年を迎え、成年に達しました。青年海外協力隊事業は当初海外技術協力事業団の事業として発足しましたが、昭和49年国際協力事業団の発足とともに同事業団の重要な事業のひとつとなり、今日に至っております。

この20年間、協力隊事業は、国内の力強い支援と、海外での高い評価を得て順調に発展してまいりました。これまでに派遣された隊員数は約6,000人に達し、受け入れ国数も34カ国を数えるに至っております。また、現在派遣中の隊員数は約1,400人に達し、主要先進国が行っている同種の事業の中でも、米国の「平和部隊」に次ぐ規模になっております。

国際協力事業団は、途上国の国造りを目的とする政府機関として、我が国の政府開発援助の主要な一翼を担っております。青年海外協力隊事業は、当事業団が行っている技術協力事業の重要な柱の一つであり技術協力を進めるに当たってボランティア精神を発揮させつつ、途上国の人々との交流を図るものとして、特色ある存在となっております。協力隊に参加する青年男女は、わが国とは言語や慣習も、また価値観や世界観も異なった社会で自分を試してみたい、あるいは途上国の人々のために少しでも自分の力を役立てたいとの純粋な若い情熱を抱く有為の人たちです。今日「飽食の時代」ともいわれる豊かな日本の社会にあって、このような奉仕の精神に支えられた覇気ある青年男女が多く存在し、協力隊の経験を経てより立派に育っていくことは、必ずや日本の将来にとっても良い成果をもたらすものと確信しております。

本年、協力隊の創立20周年を迎えるに当たり、20年の歩みを振り返り、これまで協力隊事業の発展に寄与された隊員諸君ならびに多くの支援者の方々に対し、深い感謝と敬意を表するとともに、今後この事業がより広い国民の支援を得て発展を続け、次の時代の若者に引き継がれていくよう願ってやみません。国際協力事業団としても今後より一層の努力を行う所存です。

このような感謝と願いをこめて、ここに本書「青年海外協力隊の歩みと現状—その20年」を刊行致しました。本書が協力隊事業に対し、さらに多くの方々の理解と支援を得ることに資すれば幸いです。



昭和60年10月

国際協力事業団

総裁 有田 圭輔

発刊にあたって

青年海外協力隊は、昭和40年創設され、同年度第一次隊26名がラオス、カンボディア、マレーシア、フィリピンの4カ国に派遣されました。当時、草創期にあたって、隊員たちが帰国するまで事務局はあるだろうかとの冗談をいわれる程協力隊事業はささやかなものでした。その後20年、今日派遣中の隊員数は1,400名に達し、派遣中の国も30カ国を数えるに至っています。

このように協力隊事業は、この20年間、若さと情熱を秘めた新鋭ある日本の青年男女と、これを支える力強い国内の支援者ならびに受け入れ国側の高い評価に支えられて順調に発展してまいりました。創設20周年を記念してその軌跡を振り返り、現状を書き記したものが本書です。

草稿を一読して、改めて協力隊事業の真髄に触れる思いがしました。その第一は、事業の主役が有為の青年男女、即ち飛び込んで自らを磨こうとする、あるいは少しでも他の人の役に立ちたいとする若者の情熱がこの事業の推進力となっており、このような若者の参加を得る限り、協力隊事業は今後とも発展を続けていくでありましょう。

その第二は、隊員を支える広範な支援者が国内に多数あるということです。特に皇太子、同妃両殿下から、この20年間隊員の出発の際や、海外ご視察時に親しく隊員へ励ましのお言葉をいただいております。隊員を舞台裏で支える国内支援者は隊員の両親や家族を始め、帰国隊員、隊員の所属する企業や地方公共団体、農・水産業以下の各業界、経営者諸団体および労働関係組織、国内の青年諸団体、報道関係者、更に国政のレベルでは与野党の政治家、協力隊を所轄する外務省他の諸官庁、その他協力隊を育てる会、協力隊運営委員会もあります。これらの支援者は協力隊の創設に際し、また今日に至るまでその運営の諸局面（啓発、募集、選考、訓練、派遣中の活動、帰国後の社会復帰等）において力強く支えて下さっています。

その第三は、隊員の相手役となる受け入れ国の人々の協力隊に対する高い評価が、協力隊事業の発展の基礎をなしていることです。そして受け入れ国も年々増加し、派遣要請もこれまで増加の一途を辿っています。今後、協力隊としては受け入れ国数の増加ならびに受け入れ国の要請の多様化や質的変化の対応に不懈の努力が必要であります。

本年、協力隊事業は、新規派遣隊員数3年倍増計画の最終年を迎え、ここ1～2年の間に派遣中の隊員数は2,000人の規模に達し受け入れ国数も増加するものと見込まれます。このような大量派遣時代を迎えて、協力隊としては隊員の質の向上を図り、受け入れ国の強い期待にこたえていくことが大きな課題となっております。それには従来の手作りの協力隊から、隊員を後方でしっかりと支える体制を整え、より本目細かな配慮をもって効率的に運営される協力隊を目指す必要があります。しかしながら、それによって協力隊の伝統である人間的な触れ合いを欠くようなことがあってはなりません。

青年海外協力隊は、これまで日本の若者に夢を、そして受け入れ国の人々には希望を与えてまいりました。この事業を今後更に発展させ、次の時代の若者に引き継ぐため、事務局として一層の努力を傾けてまいります。関係者の皆様の厳しい叱咤激励と、変わらぬ暖かいご支援をお願いして発刊の辞と致します。



昭和60年10月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局長
数原 孝憲



總理表敬

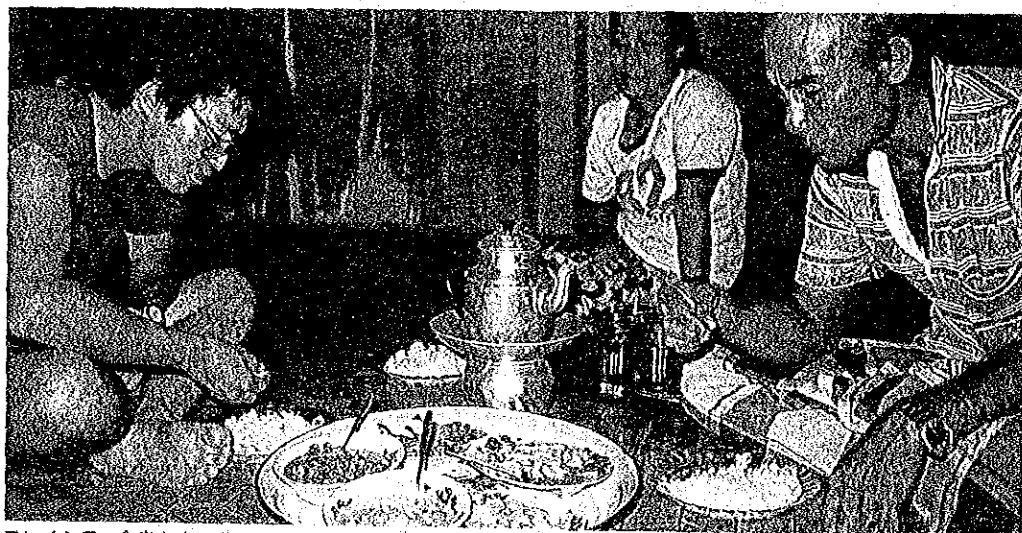


セネガル隊員の活動状況ご視察の皇太子、同妃両殿下

共同通信提供



タイで電子機器指導にあたる隊員



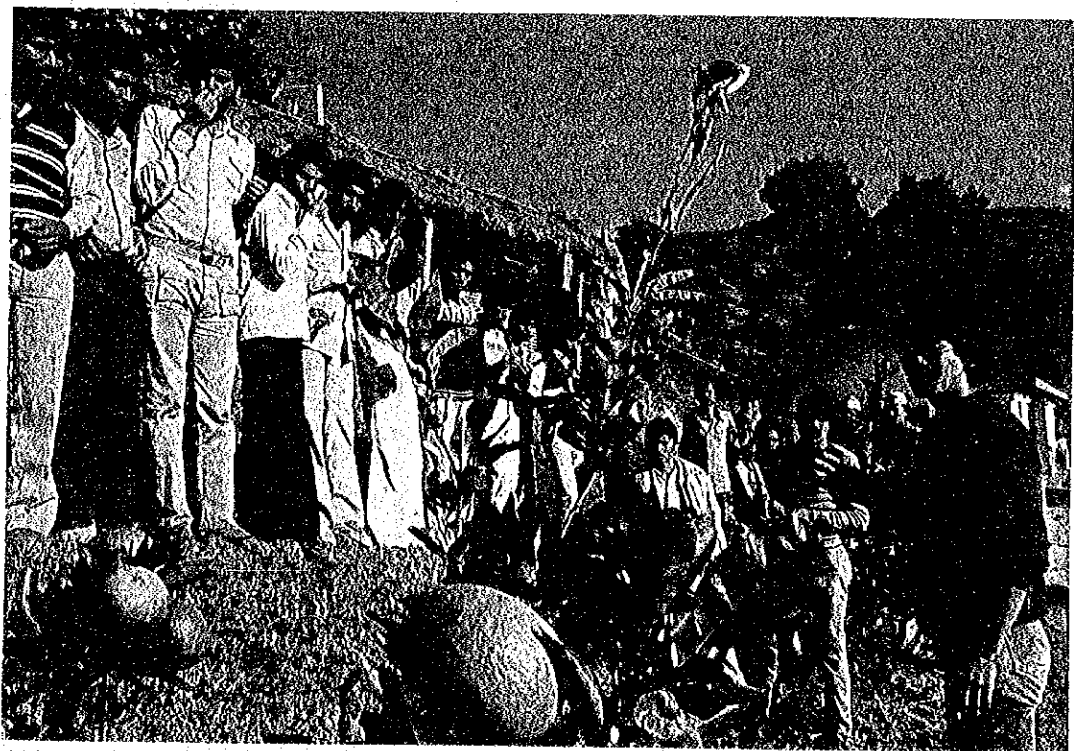
マレーシアの食事をする隊員



フィリピンで野菜指導にあたる隊員



スリランカで幼稚園の先生



ネパールで柑橘の栽培指導



モロッコでの測量隊員



チュニジアで柔道指導



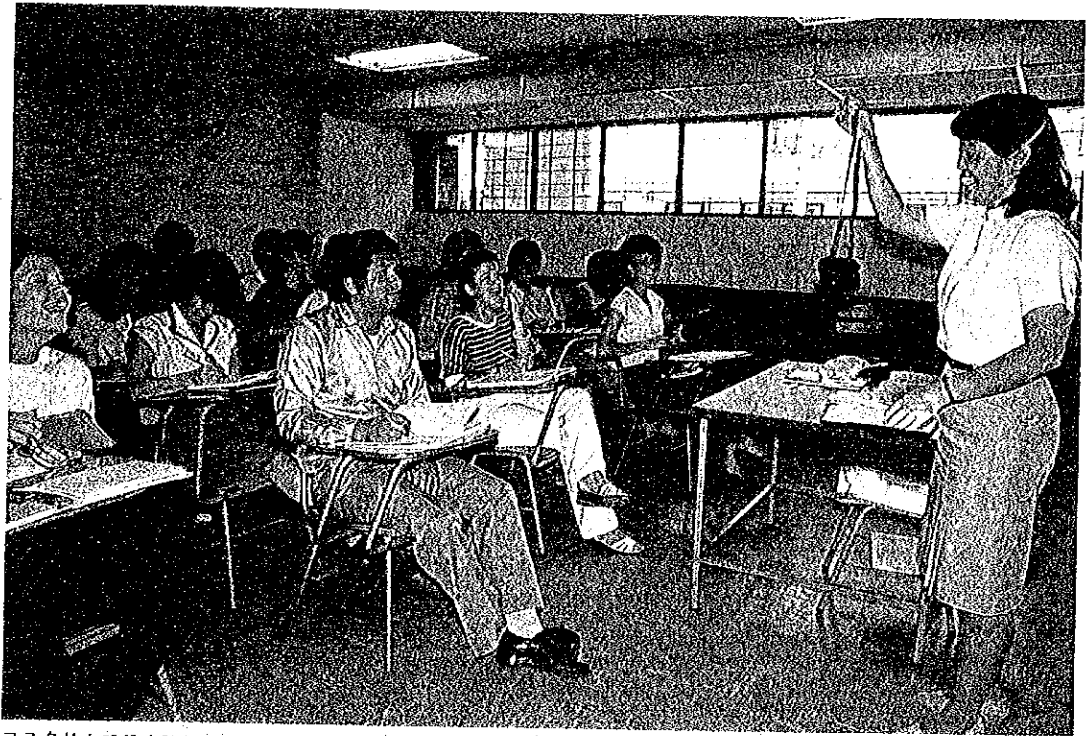
エチオピアの土木隊員



ケニアで野菜指導



リベリアで農業土木隊員



コスタリカで日本語指導



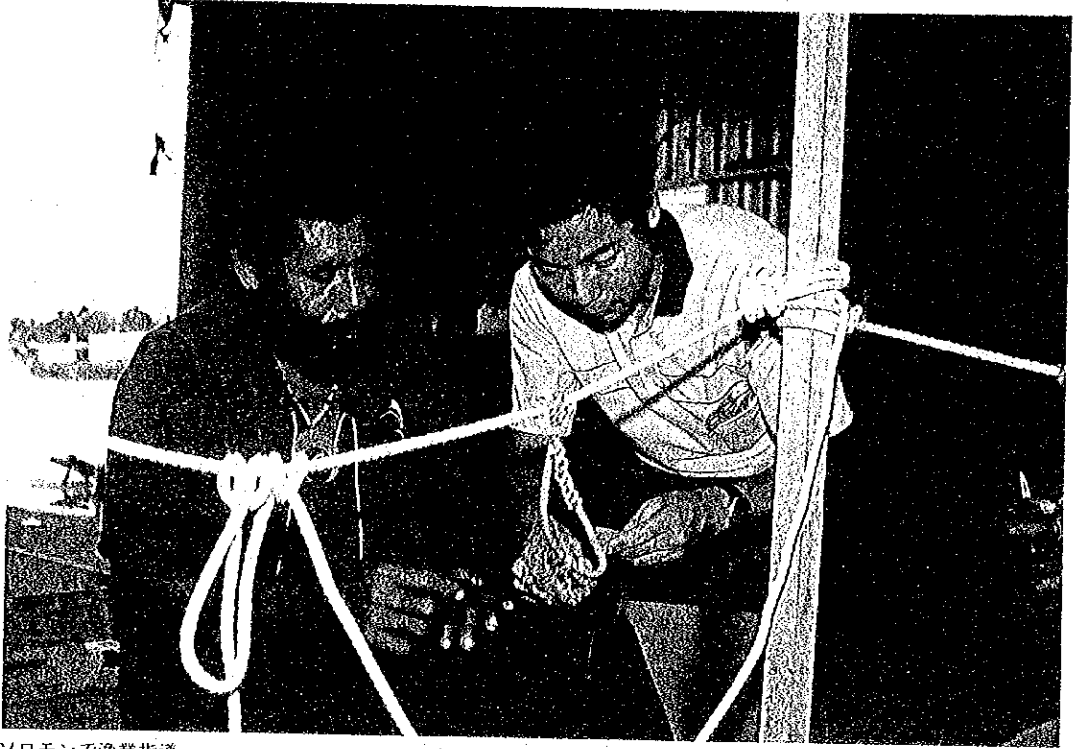
ペルーで陸上競技の指導



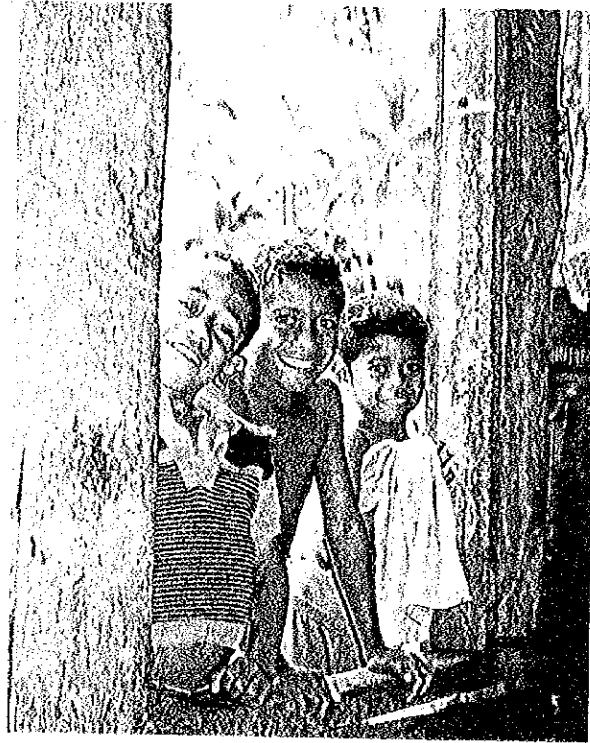
ボリビアで買物をする女子隊員



パラグアイで測量



ソロモンで漁業指導



フィジーの子供たち

目次

創立20年を迎えて	国際協力事業団総裁	有田 圭輔	
発刊にあたって	青年海外協力隊事務局長	数原 孝憲	
序章 協力隊を語る			(1)
青年海外協力隊発足の思い	山 衆議院議長	坂田道太	
20年を振り返って	衆議院議員	海部俊樹	
会長時代の感想	日本興業銀行特別顧問	中山素平	
協力隊を育てる会	協力隊を育てる会会長	茅 誠司	
協力隊を語る	青山学院大学教授	衛藤藩吉	
明日への自戒	(財)育青協会理事長	末次一郎	
私の赴任の頃	初代日本青年海外協力隊OB会会長	新保昭治	
事務局長時代の感想	初代日本青年海外協力隊事務局長	篠浦公夫	
協力隊を語る	二代目青年海外協力隊事務局長	伴 正一	
あとになって思うこと	三代目青年海外協力隊事務局長	黒河内康	
米百俵	四代目青年海外協力隊事務局長	野村忠策	
第一章 協力隊概観			(35)
第1節 発足前の一般状況			(37)
1. 海外の状況			
戦後世界の流れ／国連開発の10年／アメリカ平和部隊			
2. 国内の状況			
我が国の戦後の状況／戦後、経済技術協力の系譜／青年技術者派遣			
第2節 発足までの経緯			(42)
1. 創設の動き			
2. 平和奉仕隊			
性格／実施母体／臨時特別委員会			
3. 調査団の派遣			
調査目的／調査対象国と調査団／調査内容			
4. 有識者調査			
賛成理由／条件／条件つき賛成／反対意見			
5. 日本青年海外協力隊の誕生			
発足／目的と性格／国内協力支援体制			
第3節 発足以降			(48)
1. 初期の協力隊			
スタート／協力隊運営諮問委員会			
2. システム整備の時代			
3. 国際協力事業団の設立			
法文化／基本理念			
4. 3年倍増期			
第二章 任国での軌跡			(61)
第1節 総論			(63)
1. 受け入れ国側の共通の問題			
予算不足／労務提供			
2. 隊員の生活上の問題			
住宅難／交通			
3. 隊員の派遣実績			
第2節 東南アジア地域			(65)
1. フィリピン			
隊員派遣の推移／活動状況／まとめと今後の展望			
2. マレーシア			
生い立ち／隊員活動／展望			
3. ラオス			
隊員派遣の推移／草創期／協力活動の概要／タゴン地区の開発と日本の協力／協力隊と活動環境の変容／撤退			
4. カンボディア			
隊員派遣の推移／撤退			
5. タイ			
隊員派遣までの経緯／外国人ボランティア受け入れの方針／今後の展望			
第3節 南アジア地域			(99)
1. バングラデシュ			
略史／隊員派遣の推移／隊員の協力活動／将来の方向、可能性について			
2. ネパール			
隊員の特徴／隊員の活動／評価と展望			

3. インド	
巨大な国／ボランティア／隊員の記録／撤退	
4. スリランカ	
隊員の派遣／隊員の活動／活動の特徴／将来の展望	
5. モルディブ	
隊員派遣の推移／隊員の活動／今後の展開	
第4節 中近東・北アフリカ地域.....	(128)
1. シリア	
隊員派遣の推移／隊員活動の特徴／協力隊に対する評価／派遣要請の背景と諸活動	
2. テュニジア	
隊員の派遣／隊員の配属状況／今後の展望	
3. モロッコ	
独立前後／派遣経緯／アラブの壁／隊員の活動／現状と展望	
第5節 東アフリカ地域.....	(160)
1. エチオピア	
概要／第1期／第2期／第3期／第4期	
2. ケニア	
荒野を拓く／個性豊かな水産隊員たち／アフリカの大地を耕す／ケニアの教壇に立つ／モイ大統領の言葉	
3. タンザニア	
概要／協力活動の概要／部門別協力活動／ニエレレ大統領の評価／劇映画「アサンテサーナ」	
4. マラウイ	
地理概観／隊員派遣／隊員の活動／今後の課題	
5. ザンビア	
派遣の推移／隊員活動／海外からの援助／今後の課題	
第6節 西アフリカ地域.....	(189)
1. ガーナ	
略史／派遣の推移／頭脳流失／ガーナ人の笑顔の美しさ／忘れえぬエピソード／今後の展望	
2. リベリア	
隊員派遣の推移／隊員の活動状況／今後の展望	
3. セネガル	
アフリカ最西端の国／隊員の活動／5年目をむかえて	
4. ニジェール	
概要／隊員の活動／展望	
第7節 中米地域.....	(206)
1. エルサルバドル	
派遣の推移／活動状況	
2. コスタリカ	
概要／派遣の推移／活動の状況／展望	
3. ホンデュラス	
概要／派遣の推移／活動状況／近年の派遣状況と活動	
第8節 南米地域.....	(219)
1. パラグアイ	
概要／派遣の推移／隊員派遣の歴史／今後の展望	
2. ボリビア	
概要／派遣の推移／活動状況／将来の展望	
3. ペルー	
派遣の推移／分野別派遣状況／将来の展望	
第9節 オセアニア地域.....	(231)
1. 西サモア	
ミニステートへはじめての派遣／ひとりぼっちの赴任／活動状況／派遣大勢と今後の動向	
2. トンガ	
変なニッポン人がやってきた／活動状況／日米共同プロジェクトで新展開へ	

3. ソロモン	
派遣の推移／展望	
4. バブア・ニューギニア	
概要／派遣の推移	
5. フィジー	
第三章 実施体制	(247)
第1節 協力隊事業の実施体制の整備	(249)
1. 隊員支援経費	
意義と内容／支援経費統合の意義	
2. 海外手当と国内積立金	
海外手当／国内積立金	
3. シニア制度	
4. 海外事務所	
巡回指導／駐在員・調整員／海外連絡事務所	
5. 諸補償制度	
経緯と考え方／諸補償制度	
第2節 隊員の募集・選考と訓練	(262)
1. 啓発と募集	
啓発活動／募集活動	
2. 選考	
応募資格／初期の選考試験／選考システムの改革	
3. 派遣前訓練	
初期の訓練／派遣前訓練の充実／第三国研修	
第3節 協力隊事業に対する国内の支援	(274)
1. 経緯	
2. 各団体	
省庁、地方公共団体／民間団体／帰国隊員／帰国隊員の社会復帰と現職参加体制	
参考編 協力隊事務局長任期一覧	(289)
(1)先進国ボランティアの概要と現状	(291)
(2)我が国NGOの途上国に対する開発協力について	(295)
(3)国内ボランティア	(297)
(4)協力隊の知名度について	(298)
(5)帰国隊員「終了時評価」アンケート	(300)
(6)協力隊派遣国の経済・社会統計	(303)
資料編 1 隊員派遣実績(含シニア)	(305)
2 協力隊隊員名簿	(306)
3 国別駐在員・調整員一覧表	(331)
4 都道府県協力隊事業主管課担当者一覧	(333)
5 協力隊派遣事業費の推移	(336)
6 協力隊派遣取扱一覧	(337)
7 応募者数・要請数・合格者数推移	(338)
8 訓練所講師一覧表	(339)
9 隊員編纂による教科書等	(341)
10 国会会議録協力隊関係抜粋	(342)
年表編	(346)

あとがき

記号・略語表
OTCA : OVERSEAS TECHNICAL COOPERATION AGENCY (海外技術協力事業団：国際協力事業団の前身)
JICA : JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (国際協力事業団)
JOCV : JAPAN OVERSEAS COOPERATION VOLUNTEERS (青年海外協力隊)
S : SHOWA 昭和の略

本文中の協力隊に関する資料・統計は原則として昭和60年3月31日付。